

グループホームかもめの家

症 例 概 要 利用者氏名：K様（104歳 女性 要介護4） 3階ご利用者

利用期間：平成19年7月 ～ 現在利用中

経過：高齢であるK様（看取り対応中）の「もう一度栃木に行きたい」という希望を聞き逃さず、ご家族からの情報収集と多職種との連携を経て、生まれ故郷である栃木へお連れする夢を実現した功績。

内 容

今年3月に会話の中から「栃木に行きたい」と仰られ、職員間で情報収集を行うと栃木県真岡市生まれということが分かり、6月に栃木に外出できるよう計画を立てました。その最中にご長男がご逝去されたのご家族より報告があり、それから本人も体調を崩され外出計画は困難となりました。

その後も体調不良は続き静養中心の生活となりましたが、栃木の情景や特産物のポスターを居室に貼り、職員によく思い出話を聞かせて下さいました。改めて職員みんなが「栃木に連れて行きたい」という気持ちが強くなり、低下した体力が戻る事を願い、食事面でのむせ込みを減らすべく毎食前のうがいを実施していくと、ペースト食から食欲が徐々に増し、むせ込みがなくなり主食がご飯、副食は刻み食で提供できるまでになりました。

リハビリ面ではベッド上のオムツ対応ではなく、トイレに座っての排泄。車いすも身体のサイズに合うようPTにアドバイスをもらい変更し、自走するまで元気を取り戻されました。静養時間も減り徐々に体力を取り戻され、再度10月に栃木外出の計画を立て直しました。ご家族にも了承を得て、また104歳という年齢もあり医療連携の主治医、看護にも相談し外出許可を頂き10月10日に計画を実行しました。

当日は、長い移動でしたが車中でも姿勢を崩さず終始栃木の風景を楽しまれました。食事は名物佐野ラーメンを問題なく食され、お土産も特産品を選ばれました。佐野厄除け大師に参拝し、健康祈願とお守りを購入され笑顔が多く輝かしい1日を過ごして頂きました。無事に外出を終えた事をご家族にも報告し「故郷の栃木に行けて本当に幸せ者です。かもめの家に居れて幸せだと思います。」とお言葉を頂きました。

一度は諦めていましたが、夢を叶えられ職員一同嬉しく思っております。104歳という高齢でも諦めず粘り強く行えば夢の実現はできるという自信になりました。

介護職員に限らず、医療、リハビリ、ご家族の協力があったからこそ実現できた事を感謝いたします。今後も簡単に諦めるのではなくご利用者の輝かしい1日の提供、ご家族にも安心して頂けるように職員一同邁進していきます。